稲　作

平成30年度　水稲作柄現地調査報告書

平成30年 9 月
一般社団法人　北海道米麦改良協会

【調査月日】　平成30年 8 月27日(月)～29日(水)
【調 査 先】
◎道南班：当別町・蘭越町・道南農業試験場・北斗市・厚沢部町・今金町・厚真町・長沼町・中央農業試験場（水田農業Ｇ）
◎道央・道北班：美唄市（奨決圃・共励会直播　最優秀賞圃場）・新十津川町・深川市・小平町・名寄市・士別市・和寒町（共励会　最優秀賞圃場）・上川農業試験場・旭川市・東川町・中富良野町
（各市町の圃場は、現地奨決圃場を中心に調査）
【参加人数】　約70名（部分参加含む）
【総合検討会】平成30年 8 月29日(水)　空知農業会館　4 階大会議室

本年度も標記調査の実施にあたり、道農政部・農業改良普及センター・道総研農業試験場・地区米麦改良協会等、関係機関の皆様にご協力・ご配意をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

本年度の気象状況は各地域共通して、４月～５月は高温多照、６月第２半旬から７月中旬まで低温・日照不足、７月下旬が高温多照、８月中旬がやや低温・多雨・日照不足で、水稲の生育進度がやや遅れている地区が多いようです。初期生育の不良による茎数不足で穂数が少なく、㎡当たり籾数の不足が考えられるため不稔は少ないようですが、主産地等では稔実籾数が平年より少なくなる見通しです。今後の天候次第ですが、籾数不足のため平年並の作柄は厳しいと考えられます。また、生育状況は地域差や圃場差があるようです。

本調査で得られた各地区の作柄概況、総合検討会で指摘された今後の対応、および次年度に向けた留意事項等について報告します。

1．各地区における作柄概況について

【石狩地区】
・分げつ発生は２日早かったものの、幼穂形成期・出穂期で２日遅れでした。
・茎数は平年より１割程度少なく、籾数は多くないことが推察されています。
・病害虫は特に認められていません。

【後志地区】
・活着期は２日早かったものの、幼穂形成期・出穂期で１日遅れ、出穂揃は２日遅れ

写真１　作柄調査の様子（当別町）

写真２　作柄調査の様子（蘭越町）

でした。成熟期は平年より３日程度遅れることが見込まれます。
・病害虫は特に認められていません。

【渡島地区】
・分けつ始は３日早く、幼穂形成期は２日遅れたものの、出穂期は平年並みでした。
・稔実歩合は平年並みと推察されていますが、開花時の低温曇天の影響を考慮するとやや下回る可能性が見込まれています。
・ごく一部にヒメハモグリバエの葉の食害が見られたが、いもち病は確認されていません。

写真３　作柄調査の様子（北斗市）

【檜山南部地区】
・分けつ始は１日早く、幼穂形成期は１日遅れたものの、出穂揃いは平年並みでした。
・茎数は「ふっくりんこ」で平年並み程度。不稔の発生は少ないと推察されています。

写真４　作柄調査の様子（厚沢部町）

・一部にいもち病の発生と、８月上旬の強風・低温により葉鞘褐変、褐変穂は確認されています。

【檜山北部地区】
・葉数は平年並みであるものの、草丈は短く、茎数は２割程度少ない。出穂揃いは平年並みでした。８月上旬の低温・日照不足で開花が不順で登熟がやや遅れているものの、稔実は平年並みと推察されています。
・出穂の遅いところでは、籾褐変症状が見られています。

写真５　作柄調査の様子（今金町）

【胆振地区】
・分けつ始は２日早かったものの、幼穂形成期は４日遅れで、出穂期は３日遅れでした。
・８月15日現在２日の遅れで、穂数は平年より１割程度少ないことが見込まれますが、一穂籾数は平年より１割程度多いことが見

写真 6　登熟期の「ななつぼし」
（厚真町）

込まれています。
・いもち病の発生は見られていません。

【空知南西部地区】
・分けつ始は２日早いものの、幼穂形成期・出穂期は２日遅く、８月15日現在では３日遅れでした。
・稔実は平年並みと予想されています。
・いもち病の発生は見られていません。

写真 7　作柄調査の様子（長沼町）

【空知中央部地区（美唄市、新十津川町）】
・美唄市では初期生育（７月１日現在）はやや不良で、幼穂形成期で２日遅れ、出穂期で３日遅れ、穂揃はやや不良、成熟期もやや遅れると予想。穂数が少なく籾数はやや少なくなる見込みです。直播栽培はやや遅れているものの、生育量は平年並み以上で、収穫期は２日程度の遅れと予想されます。

写真 8　作柄調査の様子
（美唄市奨決圃場）

写真 9　共励会最優秀賞　山口氏の圃場調査（美唄市）

写真10　奨決圃場の「そらゆき」
（新十津川町）

・新十津川町では初期生育はやや不良で、幼穂形成期で３日遅れ、出穂期で２日遅れ、穂揃はやや不良。穂数は少なく、籾数も平年より少ない見込みです。

【空知北部地区（深川市）】
・初期生育はやや不良、幼穂形成期は平年並み、出穂期で２日遅れ、穂揃期間がやや長いが、成熟期は平年並みの予想。穂数がや

写真11　作柄調査の様子
（深川市奨決圃場）

や少ないが、籾数は平年並みの見込みです。

【留萌地区（小平町）】

・初期生育はやや不良で、幼穂形成期で１日遅れ、出穂期で２日遅れ、穂揃期間が長く、成熟期はやや遅れる予想。穂数がやや少なく、籾数も平年より少ない見込みです。

写真12　作柄調査の様子（小平町奨決圃場）と不稔
（小平町一般圃「ゆめぴりか」）

【上川地区北部（名寄市、士別市）】

・名寄市では初期生育は不良で、幼穂形成期で２日遅れ、出穂期で１日遅れ、穂揃はやや不良で、成熟期は遅れる予想。穂数がやや少なく、籾数は平年並み～やや少ない見込み。

・士別市では初期生育は平年並みで、幼穂形成期は１日早く、出穂期で１日遅れ、穂揃期間がやや長い圃場もあり、成熟期は平年並み～やや遅い予想。穂数は平年並みで、籾数も平年並みの見込み。

写真13　奨決圃の「はくちょうもち」
（名寄市）

写真14　作柄調査の様子
（士別市奨決圃場）

写真15　共励会最優秀賞　高原氏
（和寒町）の「ゆめぴりか」

【上川中央部（旭川市）】

・初期生育はやや不良で、幼穂形成期で３日遅れ、出穂期は２日遅れで、穂揃期間は平年並みからやや長かったが、成熟期は平年並みの予想。穂数がやや少なく、籾数は平年並み～やや少なくなる見込み。

写真16　作柄調査の様子
（上川農業試験場）

写真17　作柄調査の様子
（旭川市奨決圃場）

【上川南部（東川町、中富良野町）】

・東川町では初期生育（７月１日現在）がやや不良で、幼穂形成期で４日遅れ、出穂期で３日遅れ、穂揃期間は平年並みで、成熟期は３日遅れの予想。穂数がやや少なく、稔実籾数は平年より少ない見込み。

・中富良野町は初期生育は不良で、幼穂形成期で平年並みで、出穂期は１日遅れ、穂揃が極めて悪く、成熟期は遅れる予想。穂数がやや少なく、籾数はやや少なくなる見込み。

2．総合検討会における協議事項について

(1)　両班による調査終了後、道農政部（上川農試駐在）藤田上席普及指導員を座長とする総合検討会を開催し、本調査のまとめと課題整理を行いました。

(2)　全道的な傾向としては６月第２半旬からの低温と日照不足で生育が著しく停滞し、その後冷害危険期まで低温と日照不足が続

写真18　「上育474号」（左）と「空育191号」（右）（東川町奨決圃場）

写真19　「ゆめぴりか」（左）と「ななつぼし」（右）（中富良野町奨決圃場）

きましたが、７月後半の温度上昇（高温）と多照で、回復傾向となりました。茎数、籾数確保への影響は受けましたが、８月上旬まで気温が高く推移し日照時間にも恵まれたため、出穂・開花は比較的順調でした。冷害危険期は強い低温に見舞われなかったため、不稔発生は少ないようです。登熟期間の夜温が高くなかったため、腹白粒・乳白粒等の被害粒の発生は少ないと見込まれますが、穂揃い不良のため青未熟粒が懸念されます。今後の天候次第ですが、籾数不足のためうるち米は平年並みの収量はやや厳しいとの見込みです。一方、もち米の主産地では生育の遅れは目立ちますが、収量的には平年並みも見込まれると総括されました。

(3) 食味成分では、登熟期間の始めは気温は高かったものの、８月中旬の気温が低かったことから、アミロース含有率は７月中に出穂した圃場では問題がないものの、出穂が遅れた圃場は例年より高くなることが予想されます。一方、幼穂形成期や出穂期における葉色がやや濃かったとみられ、蛋白質含有率は懸念が残ります。

(4) 今後の技術対策については、８月の降雨により土壌水分は十分ですが、穂揃いが悪い圃場が多く登熟ムラがあるため、こまめな試し刈りにより適切な刈り取り時期を把握すること、土壌が柔らかい圃場は、排水対策等により圃場を乾かすこと、収穫時の籾水分のムラが予想されるため、必ず二段乾燥を行い、適切な調製を行うことが必須であるとの見解が示されました。

(5) 収穫後の平成31年産に向けた技術対策として、稲わら処理や心土破砕の励行、現場に浸透してきたようですが育苗期間中の高温対策として育苗日数・葉数を減らすことと温度管理に気をつけること、また、適切な籾数確保のために改めて土壌診断による地力、乾土効果の把握が必要であること等は従前の通りです。

以上